

第1回 沖縄伝統空手道中部国際大会 大会要綱

The 1st Okinawa International Traditional Karate Tournament in Chubu

開催日 2025年3月30日(日)

開催場所 愛知県武道館 名古屋市港区丸池町 1-1-4

開催種目 沖縄伝統型 首里手 泊手 那覇手 各指定型 (別紙1参照)
フルコンタクト組手 (規定 別紙2参照)

主催 沖縄国際伝統空手道連盟

参加費 「型」 初級・中級 ¥5,000 上級 ¥6,000

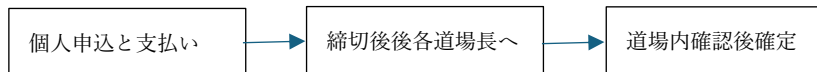
「組手」 初級・中級 ¥5,000 上級 ¥6,000

注)型+組手のエントリーは出来ません、またオープン大会ではないので参加資格については事務局まで直接お問い合わせ願います。

観覧料 無料

申込方法 参加選手個人でWEB申込

<https://forms.office.com/r/x7p54hiB1V>



締切日 2025年 1月 7日 0時まで (WEB)

振込先 ゆうちょ銀行 218(ニイチハチ) 普通 0039982

口座名義 二ホンカラテドウバイショウリュウユウシンカイ

注)振込時は必ず「選手氏名」(カタカナ)名義で入力願います

代表事務局 沖縄国際伝統空手道連盟 代表事務局 担当 舟越祐治

〒494-0003 愛知県一宮市三条字北平 46-10 tel0586-61-6766

Mail: contact.oitkf@gmail.com

協力 アゲシオジャパン(海外選手窓口) TEL 098-988-3888

〒902-0067 沖縄県那覇市安里 3-1-13 下地ビル 3F

<個人情報 取り扱いについて>

- 1、主催者は、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を順守し個人情報を取扱う。
なお、取得した個人情報は、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、公式ホームページ等その他競技運営及び競技に必要な連絡等に利用する。
- 2、本大会はインターネット上で動画配信を行うことがある。
- 3、大会の映像・写真・記事・個人記録等は、主催者承認した第三者が大会運営及び宣伝等の目的で、大会プログラム・ポスター等の宣伝材料、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネット等の媒体に掲載することがある。

型 第1回沖縄伝統空手道中部国際大会（上級） 参加申込書

第1回沖縄伝統空手道中部国際交流大会（初級・中級）

※出場クラスの数により 男女及びクラス統合の可能性あり

型											
初級（国際交流大会）			中級（国際交流大会）			上級（国際大会）			上級（国際大会）		
						首里手・泊手			那覇手		
¥5,000			¥5,000			¥6,000			¥6,000		
1	幼児	初級	2	幼児	中級	3	幼児	上級	4	幼児	上級
5	小1・2	初級	6	小1・2	中級	7	小1・2	上級	8	小1・2	上級
9	小3・4	初級	10	小3・4	中級	11	小3・4	上級	12	小3・4	上級
13	小5・6	初級	14	小5・6	中級	15	小5・6	上級	16	小5・6	上級
17	中学生	初級	18	中学生	中級	19	中学生	上級	20	中学生	上級
21	高校生	初級	22	高校生	中級	23	高校生	上級	24	高校生	上級
25	一般	初級	26	一般	中級	27	一般	上級	28	一般	上級
29	50歳以上	初級	30	50歳以上	中級	31	50歳以上	上級	32	50歳以上	上級

個人型の参加費

初級・中級 ¥ 5, 0 0 0

上級 ¥ 6, 0 0 0

上記の出場クラスの番号をご記入下さい。➡ No,

ふりがな				男・女
選手氏名				
住所	〒			
緊急連絡先	☎	保護者名	⑩	
年齢	歳	学年	幼児・小学・中学・高校	年生
級・段位	級・段	修行年数	年	
団体名・道場名				

組手 第1回沖縄伝統空手道中部国際大会(上級) 参加申込書 第1回沖縄伝統空手道中部国際交流大会(初級・中級)

※出場クラスの人数によって混合する場合がございます。

※軽量・重量クラスは参加選手の平均体重で分けます。一旦どちらかに申込をお願いします。

国際交流大会 初級 (上段蹴りなし) ※修行年数2年未満で入賞経験の無い選手対象						¥ 5,000			
1	幼児男女	2	小学1年男女	3	小学2年男女	4	小学3・4年男子	5	小学3・4年女子
6	小学5・6年男子	7	小学5・6年女子	8	中学男子軽量53kg未満	9	中学男子重量53kg以上	10	中学女子軽量48kg未満
11	中学女子重量48kg以上								

国際交流大会 中級 (上段膝蹴りなし)						¥ 5,000			
12	幼児男女	13	小学1年男女	14	小学2年男女	15	小学3年男子	16	小学3年女子
17	小学4年男子	18	小学4年女子	19	小学5年男子	20	小学5年女子	21	小学6年男子
22	小学6年女子	23	中学男子軽量53kg未満	24	中学男子重量53kg以上	25	中学女子軽量48kg未満	26	中学女子重量48kg以上
27	高校男子	28	高校女子	29	一般女子	30	一般男子		

国際大会 上級 (中学生以上 上段膝蹴りあり)						¥ 6,000			
31	幼児男子	32	幼児女子	33	小学1年男子	34	小学1年女子	35	小学2年男子
36	小学2年女子	37	小学3年男子	38	小学3年女子	39	小学4年男子	40	小学4年女子
41	小学5年男子	42	小学5年女子	43	小学6年男子	44	小学6年女子	45	中学1年男子軽量46kg未満
46	中学1年男子重量46kg以上	47	中学1年女子軽量42kg未満	48	中学1年女子重量42kg以上	49	中学2・3年男子軽量53kg未満	50	中学2・3年男子重量53kg以上
51	中学2・3年女子軽量48kg未満	52	中学2・3年女子重量48kg以上	53	高校男子軽量65kg未満	54	高校男子重量65kg以上	55	高校女子軽量52kg未満
56	高校女子重量52kg以上	57	一般女子	58	一般男子軽量70kg未満	59	一般男子重量70kg以上		
60	一般女子 マスタークラス※35歳以上対象			61	一般男子 マスタークラス※35歳以上対象				

過去2年の入賞歴をご記入下さい。

上記の出場クラスの番号をご記入下さい。



No,

ふりがな				男・女
選手氏名				
住所	〒			
緊急連絡先	☎	保護者名	(印)	
年齢	歳	学年	年少・年中・年長・小学・中学・高校 年	
身長	cm	体重	kg	
級・段位	級・段	修行年数	年	
団体名				

型（形）の選択

別表1 首里・泊手系の部

No.	型名	初級	中級	上級
1	普及型Ⅰ	○	○	○
2	普及型Ⅱ	○	○	○
3	ピンアン初段	○	○	○
4	ピンアン二段	○	○	○
5	ピンアン三段	×	○	○
6	ピンアン四段	×	○	○
7	ピンアン五段	×	○	○
8	ナイハンチ初段	○	○	○
9	ナイハンチ二段	○	○	○
10	ナイハンチ三段	×	○	○
11	アーナクー	×	○	○
12	セーサン（セイサン）	×	○	○
13	ワンカン	×	○	○
14	ワンスー（ワンシュー）	×	○	○
15	ローハイ	×	○	○
16	パッサイ	×	×	○
17	パッサイ大（松村のパッサイ）	×	×	○
18	パッサイ小（糸洲のパッサイ）	×	×	○
19	チンティー	×	×	○
20	ジッティー（ジッテ）	×	×	○
21	ソーチン	×	×	○
22	ニセーシ（ニーセーシー）	×	×	○
23	スンスー	×	×	○
24	ジオン	×	×	○
25	ウンスー（ウンシューウ）	×	×	○
26	ゴジューシホ（ウーセーシー）	×	×	○
27	チントウ	×	×	○
28	クーサンクー	×	×	○
29	クーサンクー大	×	×	○
30	クーサンクー小	×	×	○

※「○」は選択できる型。「×」は選択できない型。

別表2 那覇手系の部

No.	型名	初級	中級	上級
1	普及型Ⅰ	○	○	○
2	ゲキサイⅠ	○	○	○
3	ゲキサイⅡ	○	○	○
4	サイファー	×	○	○
5	セーユンチン（セーエンチン）	×	○	○
6	シソーチン	×	×	○
7	サンセーラー	×	×	○
8	セーパイ	×	×	○
9	クルルンファー	×	×	○
10	セーサン	×	×	○
11	スーパーリンペー（ペッチューリン）	×	×	○

※「○」は選択できる型。「×」は選択できない型。



沖縄国際伝統空手道連盟 組手試合規約

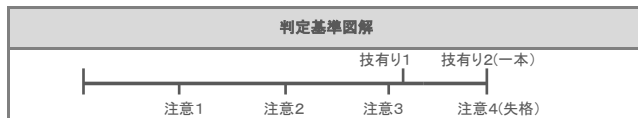
	試合時間			組手		サポーター							
	本戦	延長	上段蹴	一本 (自滅も同様)	技あり (自滅も同様)	※1 ヘッド ガード	各自用意 拳	各自用意 膝	各自用意 膝	各自用意 フアール カップ	各自用意 女性用 チェストガード	各自用意 心臓 震盪	
幼児小学生 初級中級	1分30秒	なし	無	打撃により 一瞬でもダウン 3秒以上の 戦意喪失	① 宙に浮かせ転倒させる ② 上段にクリーンヒット ③ 一時的に動きが止まる ④ 一時的に戦意喪失 ⑤ 下段蹴りで足を引きずる ⑥ 腹部のダメージで体がくの字になる ⑦ 防戦一方になり反撃しない状態が続く	○	○	○	○	○	○	任意	
幼児小学生 上級	1分30秒	1分	無			○	○	○	○	○	○	○	×
中学生 初級中級	1分30秒	なし	無			○	○	○	○	○	○	○	任意
中学生 上級	1分30秒	1分	有			○	○	○	○	○	○	○	×
高校生 中級	2分	なし	無			○	○	○	○	○	○	○	任意
高校生 上級	2分	2分	有			○	○	○	○	○	○	○	×
一般女子 中級	2分	なし	無	打撃で3秒 以上のダウン 3秒以上の 戦意喪失	① 完全に宙に浮かせ転倒させタイミンが良く下突きを合わせれば技有り ② 上段にクリーンヒットしダメージがあれば技有り ③ ~ ⑥ ジュニアと共通	○	○	○	○	○	○	任意	
一般女子 上級	2分	2分	有			×	×	○	任意	○	○	○	×
一般女子マスター 上級	1分30秒	1分	有			×	×	○	任意	○	○	○	任意
一般男子 中級	2分	なし	無			○	○	○	○	○	○	○	×
一般男子 上級	2分	2分	有			×	×	×	×	○	○	○	×
一般男子マスター 上級	1分30秒	1分	有			×	×	×	×	○	○	○	任意

※1 持っていない場合は主催者側で準備します。
※防具は布製のみ

反則
a. 掴み、掴んでからの攻撃、掛け、抱え込み b. 掌底押し、正拳押し、相手の身体に手・胸を付けての攻撃 c. 頭突き、頭をつけての攻撃、背後からの攻撃 d. 手技による顔面・首への攻撃、膝への関節蹴り e. 下腹部（帯より下、股関節より上）への攻撃（一般は金的） f. 故意に場外へ出る事、審判が判断した技のかけ逃げ g. 上段膝蹴り（小学生以下は反則、中学生以上は有効） h. 主審の「やめ」の合図の後に意図的に攻撃をした場合 i. その他審判が反則とみなした場合

失格
a. 注意4となった場合 b. 一度の反則でも相手がドクターストップになった場合 c. 試合時間に遅れた時 d. 審判員の指示に従わない時 e. 試合開始から判定が下されるまでの嘔吐はダメージとみなされ失格とする f. 規定体重を超えていた場合 g. 試合中マスクなどが道着の中から落ちた場合

判定優先順位
一本 (失格) > 技有り > ダメージ > 有効打 > 攻撃数 > 積極性



注意差の関係	
0 ≡ 注意1 ≡ 注意2 ≡ 注意3 > 注意4	注意差1の時は最終延長以外判定に影響しない。注意4になった時点で失格
0 ≡ 注意2	注意差2の時は基本的に負けだが、8:2以上の試合内容で引き分けもある
0 > 注意3	注意差3の時はどんなに試合内容でリードしていても技有りを取らない限り負けである
0 > 注意4	注意4になった時点で失格
注意1 ≡ 注意3	注意差が2なので基本的に負けだが、8:2以上の試合内容で引き分けもある
注意1 > 注意4	注意4になった時点で失格なので相殺されない
注意2 > 注意4	注意4になった時点で失格

注意差と技有りの関係	
0 < 技あり+注意1 ≡ 技あり+注意2 ≡ 技あり+注意3 > 技あり+注意4	注意差1の時は最終延長以外判定に影響しない。注意4になった時点で失格
0 < 技あり+注意2	注意差2でも技有りがあるので勝ちである
0 ≡ 技あり+注意3	技有りがあるので勝ちだが、8:2以上の試合内容で引き分けもある
0 > 技あり+注意4	技有りがあっても注意4になった時点で失格
技あり+注意1 ≡ 技あり+注意3	注意差が2なので基本的に負けだが、8:2以上の試合内容で引き分けもある
技あり+注意1 > 技あり+注意4	注意4になった時点で失格
技あり+注意2 > 技あり+注意4	注意4になった時点で失格

着衣
・ ファールカップはズボンの内側にすること。 ・ 男子のインナーTシャツは禁止、女子は白のみとする。 ・ 女子のチェストガードはTシャツの下に着用すること。

禁止事項
・ 判定後の「雄叫び」「ガッツポーズ」は厳禁とする。（注意・失格となる場合がある） ・ 判定に対する抗議は一切受け付けない。 ・ 怪我によりテーピングを施す必要がある場合は救護係りの指示に従い検印を受ける。 ・ テーピングは各自持参すること。

注意差と技有りの関係
・ 国内選手 ・ 大会参加前には必ず各自スポーツ保険に加入すること。 ・ 大会主催者は、大会当日の事故・怪我・盗難についての一切の責任を負わないこととする。

沖縄伝統空手審判規定 型(形)

〔審判基準〕

2024.7.21改訂

第1条

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 判定の視点 | — 伝統的沖縄空手の視点で判定する |
| 2 沖縄空手独特の体の使い方 | — アティファ、ムチミ、チンクチ、ガマク等 |
| 3 型(形)の正確性 | — 技を正確に順序正しく連携する |
| 4 型(形)の理解度 | — 型(形)の目的を理解している |
| 5 力 技 体 | — 力の強弱 技の緩急 体の伸縮 |
| 6 呼吸、間、極め | — 呼吸法 タイミング 極めのポイント |
| 7 運足 | — 一貫性と正確さ |
| 8 礼儀と基本 | — 礼儀 姿勢 立ち方 バランス |

〔型(形)の申告〕

第2条

- 1 競技者は規定に基づき、事前に演武する型の申告書を記録員に提出する。
- 2 申告後の変更は認めない。但し型規定外の型を申告した場合訂正することができる。

型(形)の呼称

第3条

- 1 競技者は、コート内開始位置に立ち、一礼の後、型名を明瞭に呼称する。
- 2 誤って呼称した場合、演武開始前の訂正は認めるが、開始後の訂正は認めない。
- 3 聞き取り難い場合、主審は競技者に確認するものとする。

〔減点〕 その程度や競技クラス、学年により減点基準が異なる。

(中級以下は、各審判の判断により減点しない場合もある。)

第4条

- 1 誇張動作(オーバーアクション)や過度に音を出す行為

第4条.1

	上級		中級以下	
ア	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
イ	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
ウ	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
エ	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5

※得点が小数点1位の場合

- ア.身体や道着を叩く、足を踏み鳴らす等
- イ.むやみに息を吐く、吸う
- ウ.極端に長い居着き、流れを止める動き
- エ.芝居がかった動き

- 2 型の間違いや不正確な技は減点となる。

第4条.2

	上級		中級以下	
ア	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
イ	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
ウ	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
エ	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
オ	減点	0.2~0.5	減点	0~0.5
カ	減点	0.1	減点	0~0.5
キ	減点	0.5	減点	0~1.0

※得点が小数点1位の場合

- ア.型の順序や技を間違える
- イ.拳の握り、引き手が不十分
- ウ.目線が不安定
- エ.立ち方が不安定
- オ.ブレ、つまづき
- カ.礼が無かった場合
- キ.型を打ち直した場合

〔失格と減点〕

第5条

- 1 申告した型と異なる型を演武した場合。
- 2 型の呼称がなかった場合。
- 3 演武中に帯、赤紐、ゼッケン※1、眼鏡が落ちた場合。
- 4 服装規定違反があったとき、服装をただすために2分間与えられる。それでも不備がある場合。

※1 シールタイプゼッケンの場合は減点無とする

第5条

		上級	中級以下	
1	減点	1.0	減点	0~1.0
2			減点	0~1.0
3			減点	0~1.0
4			減点	0~1.0

※得点が小数点1位の場合

〔失格〕すべてのカテゴリーに適用する。

第6条

- 1 演武を途中で放棄した場合。
- 2 審判員の指示に従わず態度が不穏なとき。
- 3 古武道で武器を落下させた場合。
- 4 古武道で検査を受けてない場合。
- 5 フラッグ方式一片方が失格でも片方は演武を行う。

勝者の宣言を行う

〔棄権〕

第7条

- 1 2回の呼び出しで、競技コートに現れない場合。
- 2 フラッグ方式一片方が棄権ならば演武は行わない。

勝者の宣言を行う

〔中断〕

第8条

- 1 競技中体調異常を示した場合、中断し処置を受けさせる。競技の続行及び判定は審判団で協議し判断する。
- 2 競技中規定違反が疑われる場合中断し確認する。競技の続行及び判定は審判団で協議し判断する。

〔異議申し立て〕

第9条

- 1 審判の判定に対し異議申し立てをすることはできない。
- 2 明らかな点数間違い、又はフラッグ方式に於いて旗数の間違いが疑われる場合、代表者又は監督のみが監査に対し異議申し立てできる。
- 3 申し立てできるのは1試合後までとする。
- 4 対応は審判監査が協議し、最終判断は審判長が行う。

〔最終判断〕

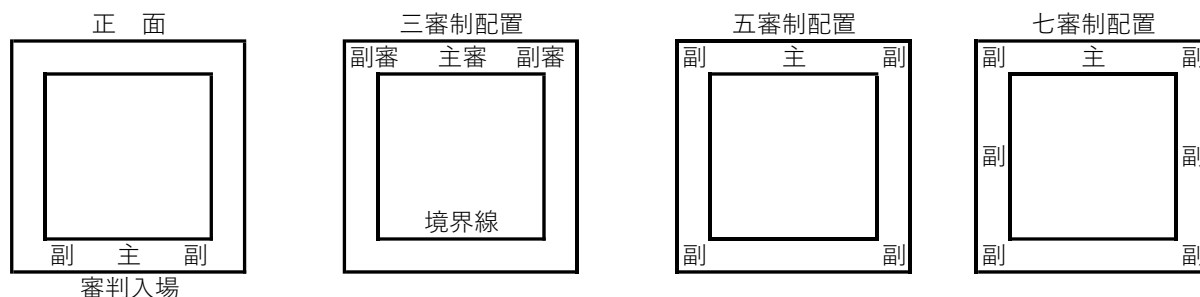
第10条

- 1 本規定に定めた事項及び事項以外に問題が生じた場合は最終的に審判長の判断に委ねるものとする。
- 2 競技者ならびにその他関係者に不穏な言動があった場合、審判団、審判長、実行委員長の判断で、厳重注意、失格、退場などの措置を講ずる。

〔審判入場、退場と配置〕

第11条

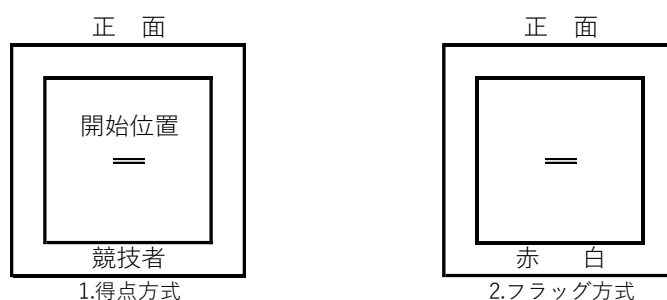
- 1 コート境界線に整列(横一列)し主審の合図で正面に一礼し入場、各審判席に着席する。退場も入場同様コート境界線に整列し、礼の後コート外に退出する。



〔競技者入場・退場〕

第12条

- 1 得点方式
 - ア.コート境界線に立ち一礼後開始位置に進み一礼する。
 - イ.型名を呼称し、演武を開始する。
 - ウ.終了後反転し境界線にもどり判定を待つ、判定後一礼し退場する。
- 2 フラッグ方式
 - ア.正面に向かって赤は左、白は右の境界線に立ち正面に礼、お互いに礼をする
 - イ.白はコート外に退出する。赤は開始位置に進み一礼し型名を呼称し開始
 - ウ.赤演武終了後一礼、反転して進み境界線で一礼後コート外に退出する。
 - エ.かわって白が演武する。終了後、境界線に赤左、白右で整列し判定を待つ。
 - オ.判定後一礼しコート外に退出する。
 - カ.主催者判断で赤白同時に演武を行う場合もある。



〔得点方式の判定方法〕

第13条

- 1 満点は10点 得点が小数点1位までの場合 0.1刻みで判定する。
- 2 満点は10点 得点が小数点2位までの場合 0.05刻みで判定する。
- 3 得点は最高点と最低点を除く合計点で判定する。
- 4 同点の場合は最低点を加算し判定する。さらに同点の場合は最高点を加算し判定する。
- 5 さらに同点の場合、演武型をかえて再度演武を行う。
- 6 もしくは、審判協議で判定を下す。

〔得点方式の審判動作〕

第14条

- 1 得点の表示—全審判員は主審の笛の合図(ピーピッ)に基づき(ピッ)で一斉に得点表を右手で挙げる。
- 2 告示員の発表、記録を確認した後、笛の合図(ピッ)で採点表をおろす。

〔フラッグ方式の判定〕

第15条

- 1 旗の表示—赤旗もしくは白旗の過半数の表明を得た方が勝者となる。

〔フラッグ方式の審判動作〕

第16条

- 1 演武終了後、審判は主審の笛の合図(ピーピッ)に基づきピッの笛で一斉にどちらかの旗を挙げる。
- 2 全審判と記録員は旗の数を確認する。主審は勝者の旗を(ピッ)の笛で挙げて判定する。

〔判定の訂正〕

第17条

- 1 得点方式において、計算間違いがあった場合。
ア.監査、審判、記録員は次の演武が始まる前までに、判定の訂正を進言できる。
- 2 フラッグ方式において旗の数え間違いがあった場合。
ア.監査、副審、記録員は次の演武が始まる前までに、判定の訂正を進言できる。
- 3 間違いが確認された場合、審判長の判断で訂正できる。

〔空手着〕

第18条

- 1 競技者は白で無地の空手着を着用する。
- 2 女性のみ空手着の下に白Tシャツを着用できる。男子の着用は認めない。
- 3 上着の長さは、帯を締めたとき腿の中ほどまでとする。
- 4 上着の袖の長さは、手首から前腕の中ほどまでとする。袖はまくり上げない。
- 5 ズボンの長さは脛の2/3を覆い足首が見える長さとする。裾はまくりあげない。
- 6 空手着の刺繍は道場名、県.市.町.村名にとどめる。
- 7 フラッグ方式のとき赤帯は認めない。白帯は認める。
- 8 主催者判断でフルコン空手着の着用を認め、空手着の長さについても考慮する場合もある。

〔装備〕

第19条

- 1 鉢巻、ヘアークリップ、貴金属等を身に着けてはならない。
- 2 テーピング 包帯等は認めない。
- 3 負傷によるテーピングは大会救護ドクターが許可したもののみ認める。

〔審判員の服装〕

第20条

- 1 ブレザー(黒、濃紺) ズボン
室内靴(黒) 靴下(黒) ネクタイ()

〔研修会の参加条件〕

第21条

- 1 沖縄伝統空手技能継承道場。及び沖縄伝統空手を学ばんとする道場、もしくは個人。
- 2 個人参加の場合、団体代表者の承認を要する。
- 3 中学生の参加は認めるがライセンスの取得は高校生以上とする。
- 4 参加するには認定員の承認を要する。

〔公認審判員(ライセンス)の取得条件〕

第22条

- | | | |
|----|---|-----------------------|
| 3級 | — | 審判研修会3回受講したもの。 |
| 2級 | — | 3級取得後、審判研修会2回受講したもの。 |
| 1級 | — | 2級取得後、実技・筆記試験に合格したもの。 |
| 上級 | — | 1級取得後、実技・筆記試験に合格したもの。 |
| 国際 | — | 上級取得後、実技・口頭試問に合格したもの。 |

〔公認審判員の種別〕

第23条

- | | | |
|----|---|----------------------------|
| 3級 | — | 初心・初級クラスでの審判資格を有するもの。 |
| 2級 | — | 初級・中級(小学生)クラスでの審判資格を有するもの。 |
| 1級 | — | 中級・上級(小学生)クラスでの審判資格を有するもの。 |
| 上級 | — | 有段者上級クラスでの審判資格を有するもの。 |
| 国際 | — | 国際大会クラスでの審判資格を有するもの。 |

〔認定員〕

第24条

- | | | | |
|--------|---|------------|---------------|
| 1 準認定員 | — | 上級ライセンス取得者 | 1級までの資格認定を行う。 |
| 2 認定員 | — | 国際ライセンス取得者 | すべての資格の認定を行う。 |

〔審判心得〕

第25条

- 1 何事よりも安全を優先させる。
- 2 公平であること。
- 3 沖縄伝統空手の視点をもつ。
- 4 礼儀正しくする。

〔資格取得、更新、失効〕

第26条

- 1 規定の条件をクリアし審査に合格した者が資格を取得する。
- 2 1級以上は実技と筆記試験を行う。不合格の場合現級更新となる。
- 3 1級以下の有効期間は3年とし、3年以内に更新もしくは受験する。
- 4 認定員、準認定員の有効期間は5年とし、5年以内に更新を行う。
- 5 更新とは現級の資格審査を受ける事である。更新が不合格の場合1つ級が下がる。
- 6 失効後、更新を希望する者は、認定員が定める規定の審査を受験しなければならない。
- 7 規約違反、審判技量不足は更新不可とする。
- 8 1級以上の資格取得者は、救命救急講習を3年に一度受講する。